

2024年10月7日

疫学研究とは、病気にかかることの頻度や病気の多さを調べて、その原因を明らかにする研究です。私たちは過去のカルテより得られた情報を利用して、現在まで行われた病気の診断・治療の評価を行い、より良い診断・治療法を確立し患者さんに還元できるように、下記の疫学研究を行っています。

下記の疫学研究は、兵庫県立尼崎総合医療センター倫理委員会の承認を得た後、研究責任者の管轄のもとに行われます。当院にすでに記録されている臨床情報をもとに行われるため、対象となる患者さんに新たにご負担をおかけすることはありません。

また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、対象者のプライバシーは十分に尊重され、個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません。

もし、下記の疫学研究にご自身の臨床情報を使用されることに同意されない方は、下記連絡先にご連絡くだされば、解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも、診療上であなたが不利益を被ることは一切ありません。また下記研究に関して、ご不明な点がございましたら、いつでも下記連絡先にお問い合わせください。

<概要>

研究課題名	挿管患者へのクラゾセンタン投与が抜管困難の原因となるか
対 象	2022年5月1日から2024年4月30日までにくも膜下出血で当院ICUに入室し、クラゾセンタン、オザグレルまたはファスジルを投与された患者さん
研究期間	2025年3月31日までを予定しています。
研究目的	エンドセリン受容体拮抗薬であるクラゾセンタンは、クリッピング術後とコイリング術後の両者において、くも膜下出血後の脳血管攣縮に関連する脳虚血合併症と全原因による死亡率を大幅に減少させるとされます。当院でも2023年5月からクラゾセンタンが投与されています。投与開始後、当院では、クラゾセンタン投与中の気管挿管患者でリークテストが陽性となり抜管困難となった症例が複数発生しました。そこで、以前の治療法と比較し、クラゾセンタンを投与すると抜管困難が増加するかを検討します。
利用又は提供を開始する予定日	承認日以降に試料・情報の利用・提供を開始します。
方 法	診療記録より臨床情報を収集します。収集する臨床情報には、年齢、性別、採血結果、再挿管の有無、気管切開の有無などがあります。研究結果は学会および論文にて公表します。
個人情報	臨床情報は匿名化され、個人が特定できないようにして、必要な臨床データのみを収集して解析を行います。そのため、本研究に協力していただく患者さんに不利益が生じることはないと考えています。しかし、そうであっても臨床情報を本研究のために使用されたくない方は、ご連絡いただければ解析対象から除外します。
問い合わせ先	兵庫県立尼崎総合医療センター 集中治療科 〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町2-17-77 TEL：06-6480-7000 FAX：06-6480-7001 研究責任者：集中治療科 奥比呂志